

市史講座第4回ミニレポート

7月19日(土)第4回の講座が開かれました。

第1部：「勝部宿禰一族と朝山日乗」(講師: 島根県立松江東高等学校教諭 原 慶三 先生)



原先生は、朝山日乗の略歴について、尼子家臣から京都に上り天皇の信任を得て内裏修造に携わり、また毛利氏と出雲の国人衆との間を取り持ったこと、織田信長の側近となったことと紹介されました。

日乗以前の朝山氏についての流れを、承久の乱後、出雲国在庁官人の最有力者となった家と、佐陀神社神主家の二つの家が存在していたこと。鎌倉幕府滅亡後、備後守護にも任せられ、室町幕府の奉公衆として活動したことと、佐陀神主の活動していた佐陀周辺の状況も論じています。そして尼子経久・晴久らの活動と比較した上で、日乗の活動を理解するよう指摘されました。また、通説とは異なり日乗は晩年に至るまで織田信長の側近として活動したことも

紹介されました。